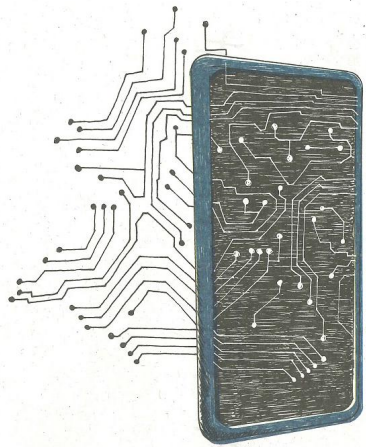




パートナー

近未来

この先数年の間に、携帯電話に搭載される人工知能(AI)が進化し、エージェント(代理人)機能が充実していくことが予想される。例えば、「ユーザーの現在地情報や普段の行動パターンを判断して的確な情報提供やアドバイスをする」「スケジュール帳に予定を書き込むと、スマホが相手先にアポイントを取り付けてくれる」といったことができるように。秘書や代理人といった「パートナー」になってくれる日もそう遠くないだろう。

「代理人」的役割も

自分の

／あったよね／

ギャル文字

ひらがなやカタカナ、漢字をパーツに分解したり、似たような別の文字や記号と置き換えて作る「ギャル文字」(ギャル=ガ+ヤ)などが女子中高生の間で使われるように。

アプリ

2008(平成20)年、スマートフォン(スマホ)の「iPhone」が日本で発売。「アプリ」と呼ばれる「モバイルアプリケーション」を使ったコミュニケーションが盛んになっていった。最近では、写真共有アプリ「Instagram」を使用し、日常のシーンを写真で公開することが人気に。ショート動画配信アプリ「TikTok」などを使って動画共有コミュニティをつくる10～20代が増え始めた。

SNS

2004(平成16)年ごろ

mixi、GREEをはじめ多ジャンルのSNSが登場。その後、Twitter、Facebook、LINEなどが登場し、人々はSNSを介して日常のコミュニケーションを図ることが当たり前になっていった。



携帯電話×インターネット＝無限大の可能性

携帯電話がインターネットに接続されたことで、便利な機能やサービスが格段に増えた。また、ブロードバンドの拡充やインターネット接続料金の定額サービス導入などにより、動画の閲覧・配信が誰でも気軽に楽しめ、「ユーザー」など新たな職業も誕生した。平成の間に使えるようになった携帯電話の便利な機能やサービスの主なものをまとめた。

SIM

「SIM」は、携帯電話の加入者を特定するためのID番号が記録されたICカード。固有の番号が付与されており、このカードを抜き差しすることで、電話番号を他の携帯電話機に移すことができる。

電子決済

2004(平成16)年に、携帯電話で買える「おサイフケータイ」が登場。16(同28)年からはiPhone向けの「Apple Pay」、Android向けの「Android Pay」(現・Google Pay)が国内で利用できるようになった。

GPS

2007(平成19)年に、GPS測位方式による位置情報通知機能が登場した。「カーナビ代わりに使う」「子どもの居場所を確認する」「紛失した携帯電話を見つける」などの便利な使い方ができるようになった。

生体認証

スマホを他人に勝手に使用されないための「ロック機能」が年々進化し、従来のパスワード入力に代わって、指紋認証や顔認証、虹彩認証を採用する機種が登場。生体認証技術が進んでいる。

持ち歩く つながる 参加する

MOBILE PHONE CULTURE

動画メール

2003(平成15)年ごろ

NTTドコモの「iモードメール」サービスを皮切りに、動画をメールに添付してやり取りできるようになった。メールに添付できるファイルのデータ容量も年々増えていった。

／あったよね／

デコ電

シールやラインストーンなどをあしらったり、マニキュアでペイントしたりする「デコる(デコレーションする)」カルチャーが誕生。携帯電話メーカーからも、デコレーションを施した機種が発売された。

ストラップ

デコ電と並んで高校生たちに流行したのが、電話機に大量のストラップを付けること。ストラップが携帯電話より重くなることも珍しくなかった。



写メール

2001(平成13)年ごろ

撮影した画像を電子メールに添付できる「写メール」サービス(J-フォン)が開始。カメラ付き携帯電話が各社から発売され、文字と写真によるコミュニケーションが若者らの間でブームに。



カメラ付き携帯電話

2000(平成12)年に、デジタルカメラの機能を搭載した携帯電話(発売元/J-フォン)が登場し、この頃から「写真はケータイで撮る」文化が始まった。後に、カメラの性能は格段に上がっていき、携帯電話はデジタルカメラ市場をおびやかす存在に。

／あったよね／

着メロ

着信音をメロディーにする「着メロ」が人気に。自分で作曲したメロディーを着信音にすることができる「メロディー着信音作曲機能」が搭載された機種なども登場した。

携帯電話ゲーム

ゲームがプリインストールされた携帯電話が登場。97年には、当時、世間の人気をさらった「たまごっち」を内蔵したPHS「たまごっち」も発売された。



変わる

2018 Change

メッセージ

1997(平成9)年ごろ

携帯電話メーカーが次々に、ショートメッセージ、ショートメールサービスを開始。電話番号宛てに簡単なテキストを送受信できるようになり、ポケベルを使った文字送信が一気に下火になっていった。

コミュニケーションから読む平成

／あったよね／

ポケベル打ち

数字の語呂合わせ(0840=オハヨウ、8181=バイバイ、14106=愛してる)や、2タッチ方式で文字を打つ(11=あ、74=め)通称「ポケベル打ち」が若者に普及。公衆電話に列をなす光景も見られた。



シヨルダーホン～小型携帯電話

1985(昭和60)年、NTTが初のポケット電話機「シヨルダーホン」を発売。当時は「携帯できる」とはいえ、肩掛けタイプでカバンのような大きさだった。89(平成元)年には、「モトローラ・マイクロタック」をはじめ、小型軽量化された携帯電話機が登場した。

変わりゆく携帯電話の役割

日常生活に不可欠なデバイスに

崇城大情報学部情報学科教授 工学博士 星合 隆成さん



携帯電話は文字通り、人と人が通話する電話機能から利用が始まり、その後、パソコン間やり取りと同じようなデータ通信機能が加わり、その後、文字を送るメール機能が付け加えられていった。1999(平成11)年、携帯電話からのインターネット接続サービス開始が転機となり、「情報デタツ」が開発した「iモード」が、個人だけでなく複数の人同士をつなぐ「コミュニケーション」の役割を担っています。次の時代には恐らく、個人の身代わりをしにくる「エージェント」機能が充実し、「パートナー」して日常生活に必要不可欠なデバイス(道具)になるのではないだろうか。

ほしあい たかしげ /NTT主幹研究員などを経て、2012(平成24)年4月から現職。サーバーなしでコンピュータがネットワークでつながる「P2P理論」の提唱者として、同理論を活用した地域活性化プロジェクト「地域コミュニティブランド(SCB)」に携わる。